BrightEyes 瞳を輝かせて

輝

夢の舞台で全力を尽くして

第52回全日本剣道選手権大会3位

溝口　夏樹さん（ひばりケ丘）

東京の日本武道館で11月3日、第52回全日本剣道選手権大会が開催されました。今回はこの大会で見事3位に輝いた溝口夏樹さんを紹介します。

名古屋刑務所の刑務官になって9年目の溝口さんは、平成12年に続き2度目の出場となった今大会について「自分にとっては夢の舞台。初出場の4年前は随分緊張していましたが、今回はできる限りのことはやったと落ち着いて臨めました」と話します。1回戦で得意技の「面」で1本を取り、波に乗れたそうです。全国から地区予選を勝ち上がってきた強豪剣士64人が日本一を目指した今大会は、全63試合中37試合が延長戦に突入する実力伯仲の接戦になりました。溝口さんも2回戦から準決勝まで4試合連続の延長戦。準決勝では14分間にも及ぶ激戦の末、優勝した鈴木剛（つよし）六段（千葉県警）に敗れて惜しくも3位でした。今回の活躍を溝口さんは「自分にとってこの成績は上出来です。知識優憲（ちしきみちのり）所長をはじめ、職場の仲間からの激励がとても大きな力になりました」とかみしめます。

溝口さんと剣道の出会いは小学2年生のころ。剣道を習っていた兄の芳和（よしかず）さんの影響で、同じ剣道場に通い始め、一生懸命練習に打ち込んだ結果、やがて小学生の大会で好成績を収めるようになりました。「試合に負けたときは悔しくて涙を流していました。今にして思うと、その負けず嫌いの性格が自分の剣道を支えてきたと思います」と笑顔で話します。中学時代は、1年生と3年生のときに佐賀県大会学年別個人戦で優勝。剣道の強豪校佐賀龍谷（さがりゅうこく）高校に入学し、先生の家に下宿をして高校に通いました。「高校の練習は量が多く、とても厳しくてつらいものでしたね」。その後進んだ日本体育大学時代も数々の輝かしい成績を収めました。大学卒業後、剣道に打ち込める環境に身を置きたいと考え、刑務官として就職。名古屋刑務所の剣道部で、強い仲間たちと毎日、切磋琢磨（せっさたくま）してきたことが実力をより高めました。

「剣道は自分の人生において大きな部分を占めているもの」と溝口さん。今後の目標である、全国矯正職員武道大会剣道の部、団体優勝を目指して仲間と一緒にけいこに励みます。

▶▶▶プロフィル

みぞぐち・なつき　昭和48年佐賀県生まれの31歳。現在、全日本剣道連盟認定剣道六段。全国矯正職員武道大会剣道の部で平成8、9、11、16年と4度個人優勝を果たしている。趣味は温泉旅行。

INTERVIEW WITH YOU
あなたにインタビュー

今年一年を振り返って

全国的に、豪雨や台風、地震と自然災害の恐ろしさを思い知らされた一年でした。東海地方も大地震発生の可能性が高いと言われているので、日ごろから災害に備える心構えが大切だと思います。この一年、家族みんなが健康で過ごせたことが何よりです。

高柳（たかやなぎ）　喜久子（きくこ）さん
（三好上）

夏に名古屋で開催された「にっぽんど真ん中祭り」に、昨年に続いて参加しました。週1回南中学校の武道場へ、よさこいソーラン踊りの練習に行くのがとても楽しみでした。そこでほかの小中学校の友達がたくさんできたことが一番うれしかったです。

関谷（せきや）　友菜（ゆうな）さん
（三好丘小学校４年・三好丘あおば）

ここ数年、運動不足を実感していたので、今年の目標として、この2年間ほど休んでいたサッカーを再び始めることを決めました。しかし、仕事が忙しくてなかなか時間をつくることができませんでした。ですから、この目標はまた来年に持ち越しです。

東（ひがし）　憲彦（のりひこ）さん
俊太（しゅんた）くん
（明知上）

次回１月１日号のテーマは
「今年の目標は」

広報情報課が皆さんのところへ突撃インタビューに伺いますので、ご協力ください。また郵便や電子メールによる「声」もお待ちしています。（12月６日（月）締め切り）

みよしの文芸

俳句

曼珠沙華これより墓域道細し　久野　也寸志
澄み渡る無限の空に鰯雲　大島　一夫
故郷へ長き鉄路や秋の雨　吉開　進
長き夜や子にいたわられふと寂し　佐藤　博子

短歌

両の手にすくいてこぼす小さな花　久野　澄江
昨夜の嵐に散りし木犀
松好み手を入れし亡夫（つま）のこころ継ぐ　近藤　和子
ぐ吾が剪定に活力（ちから）沸きくる　酒井　坂栄
呼びやるにふり向きもせず長き尾を御幣の如く振りて去る猫

狂俳

冬仕度　加藤　満弥
錦散らして木々耐える
不安だわ　林　美希
熊の出そうな山径よ
襖越し　神谷　冬花
佛と話す母を聴く